

風のように

甘木教会

主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一



“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。

ローマ信徒への手紙8：26

13: 31 イエスは、別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。
「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、
32 どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」
33 また、別のたとえをお話しになった。「天の国はパン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。」マタイによる福音書13：31～33

【説教要旨】

私の洗礼牧師の奥さんの Y 夫人は、努力の人だと思っていたが、夫人が、「日野原重明先生が、健康のために階段を一段飛ばし登ると言うが、私はそんな努力はしたくない」と意外な言葉を聞きました。漫画家の赤塚不二夫さんのギャグで、「これでいいのだ」という言葉が大好きだと言われました。以外でした。福岡の地方の一芸人しかなかったタモリさんを赤塚不二夫さんは、東京に呼び、芸能界デビューをさせ、彼の能力を引き出すために無償で助けたと言う逸話は有名で、感動したことがあります。人を損得なしで助けることができるだろうか。「これでいいのだ」という言葉がは、自分の弱さ、他人の弱さを見つめ、すべてを認めた結果の言葉だったそうです。しかし、それは現状肯定の諦めの言葉、努力の放棄でなく、「これでいいのだ」という絶対的肯定から前進する前向きな希望の力湧く言葉です。

「これでいいのだ」ということを私たちはなかなか認められません。私たちが自分の意志と違って、病気、不幸になったとします。私たちは「これでいいのだ」と言えるでしょうか。ど

こかで私たちはこれではいけないと思っています。

「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。」。これはとてつもない言葉です。

「苦労したことはずっと多く、投獄されたこともずっと多く、鞭打たれたことは比較できないほど多く、死ぬような目に遭ったことも度々でした。」という苦労をします。これを益と受け止められないような苦労です。「ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭を受けたことが五度。鞭で打たれたことが三度、石を投げつけられたことが一度、難船したことが三度。一昼夜海上に漂ったこともありました。しばしば旅をし、川の難、盗賊の難、同胞からの難、異邦人からの難、町での難、荒れ野での難、海上の難、偽の兄弟たちからの難に遭い、苦労し、骨折って、しばしば眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食えずにおり、寒さに凍え、裸でいたこともありました。このほかにもまだあるが、その上に、日々わたしに迫るやっかい事、あらゆる教会についての心配事があります。」

しかし、これを益と働くというのです。「これでいいのだ」ということです。なぜ、彼は人の目からすれば益とならない人生を益と肯定できるのでしょうか。自分というものを知っていたからではないのでしょうか。その自分と言うのは、「わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるのでしょうか。」という惨めな、弱い人間であるというのです。しかし、同時に「**わたしは弱いときにこそ強いからです。**」と言われますし、「**自分の弱さを誇りましょう。**」と言われます。それは徹底的に自分の弱さを受け入れたものが弱さだけに留まるのではなく、ここに大きな逆転、人の業でなく、神の働きを見出すことが出来るからです。「**“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。**」、もはや自分の力で自分の生き方を開いていくのではなく、神が働くというのである。「**わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。**」とい

う神が共にいてくださる。だから強いということです。パウロはどん底の人生、幾度なく怯え、悲しみに落ち、弱さにありました。祈ることさえ出来なくなったのでしょうか。しかし、この人生の中を確実に支える熱いものがありました。どう生きてよいか分からない自分に「言葉に表せないうめきをもって執り成してくださる」方が共にいてくださり、惨めな自分を愛され、受け入れてくださっている神がおられるということを強く実感していたのです。苦境に立たされたとき、「わたしの最初の弁明のときには、だれも助けてくれず、皆わたしを見捨てました。彼らにその責めが負わされませんように。しかし、わたしを通して福音があまねく宣べ伝えられ、すべての民族がそれを聞くようになるために、主はわたしのそばにいて、力づけてくださいました。」、私が生きているのでない、私を生かしてくれる、力づけてくださるお方、霊が働き私を生かしてくださる。「だれも助けてくれず、皆わたしを見捨てました。」という逆境のなかでも、人知を越えた驚くべきことが、喜びが私たちの人生にあるのだということを伝えてくださっています。

イエスさまが「天の国」について話します。「天の国」とは神が支配するところだということです。神の支配するところは32どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」という世界であり、私たちの生きる世界です。ですから弱いどんな種よりも小さい者であっても、「39高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」という存在です。知恵に満ちあふれた現代社会にあって真の「知恵」とはなんでしょうか。私と言う存在がたとえどんな状況にあって、「神の愛から、わたしたちを引き離すことはできない」存在であるということです。だから、私たちは、「これでいいのだ」という絶対的肯定から前進する前向きな希望の力湧くのです。神さまから肯定されていることを肯定して生きる。「これでいいのだ」

牧師室の小窓からのぞいてみると

世も末



今の世界に置かれている世界は毒麦を蒔いた悪魔が支配しているように思えてならない。

イランとアメリカ、ロシアとウクライナの戦争は世界大戦も呼び起こそうとしているかもしれない。中国もアジア覇権を目指して侵略を始めている。世界大戦の可能性が高い。日本も他人ごとではなく戦後 81 年の平和は脅かされている。熱中症情報が**極めて危険**というアラームが今年から出来たように、世界の平和は**極めて危険**というアラームが出ているのかもしれない。

そんな時代と私たちはどう向かい合うかということである。焦らず、時を待つことである。歴史はそのことを教えている。第二次大戦のとき、ディートリッヒ・ボンハッフアは圧政者ヒットラー暗殺事件に加担して死刑にあった。この行為は、**そこで、僕たちが、『では、行って抜き集めておきましょうか』**ということと同じである。しかし、彼の最後の言葉、「これが最後です。私にとっては命の始まりです」とあるように、彼はもう一つの生き方を示した。**刈り入れる時**が神によっておこることも示しました。だから焦らず、忍耐して、神の時がくることを信じて今日を生きることです。「たとえ**明日が終わりであって今日、りんごの苗を植える**」とルターが言うように希望をもってなすべきことをなすことです。そういう時代が今です。

園長・瞑想？迷走記



夏は保育者にとって勉強のときである。私は柴田愛子先生の「りんごの木夏季セミナー」に参加していた。多くの気づきと保育を反省し、深めていきました。でも何よりも幼児教育・保育がなんと楽しいことかと言うことを毎年いただいていることが出席することが楽しみだった。園長は幼稚園の運営、経営に囚われがちになるからなおさら、幼児教育・保育が何とたのしいことかということを実感することが運営、経営を楽しくすると感じる。

日毎の糧

聖書：わたしの目は川のように涙を流しています。
人々があなたの律法を守らないからです。



詩篇119：136



ルターの言葉から

わたしたちが現にあり、生きているのはただ恩恵によるのである。

『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

神の愛から、わたしたちを引き離すことはできない

詩篇119篇は176節からなる長篇です。いろは歌のようにヘブライ語22文字に対応し8節ごとに分かれています。（例：【アレフ
𐤀】・・・【タウ𐤅】）

苦しみにあっても神の律法、み言葉に従うことの大切さを詠っています。いや、苦しみにあってもみ言葉に聞き、生きる意味を見いだすと言います。

「71苦しみに会ったことは、私にとって良いことでした。それによって私はあなたのおきてを学びました」（口語訳聖書）

では、キリスト教的に「あなたの律」とはなんでしょうか。

「神は愛なり」ということではないでしょうか。ですからパウロはこう私たちに伝えます。

35 だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができません。しょう。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。・・・・・・38 わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、39 高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

詩篇は川のように涙して、律法、「神は愛なり」ということが初めであり、終わりであるという信仰の道を守れと詠います。

祈り：川のように目に涙して、私たちは神の愛に触れて、生かされて、強くされていきますように。アーメン。

甘木通信

「コヘレトは言う。なんという空しさ、なんとい
う空しさ、すべては空しい。」 新共同訳聖書

」「伝道者は言う。空の空 空の空、いっさいは空
である。」 口語訳聖書

コヘレト1：2



新共同訳聖書が出て来た「^{くう}空」を「^{むな}空しい」と訳したことに石橋幸男牧師が訳そのもよりも先生は日本人が最も身近に感じ、親しみをもっている「空」という訳を「空しい」と訳すとは日本での伝道を考えない無神経だと大変に怒られていたことを思いだす。

新共同訳は直訳と同時に意味訳をしている。「空」を「空しい」と訳したのは「空」の意味を「空しい」と意味訳したからだろうか。言うのは怒られていた。最も新しい聖書共同訳聖書は、「コヘレトは言う。空の空 空の空、一切は空である」と訳している。「空」に戻っている。

聖書を読むとき、原文に近い訳をするは当然だが、何よりも日本という中でどう聖書のみ言葉を伝えることが大切ではないだろうか。「岩手県大船渡市の医師・山浦玄嗣氏が、三陸沿岸南部の気仙（けせん）地方の方言を「一つの言語」として捉えてギリシャ語原典から翻訳したのが『**ケセン語訳新約聖書**』です。2002年から2004年にかけて全4巻が出版され、地元の人々の心に寄り添う温かい言葉で福音を伝えていました。」とインターネットで紹介されているように聖書翻訳は、常にこういう姿勢が大切ではないだろうか。

石橋牧師の声が今も私の耳に残っている。石橋牧師もいろいろと信徒に寄り添った逸話がある。だからこそ伝道の書の訳にこだわったと思う。

(甘木日記)土) 西鉄の新電車車両であったようで、鉄道マニアが写真を撮りに来ている。昼間は何も出来ない暑さ。日) インドネシアの青年、隣町の青年、授業の礼拝出席の為に来た青年。今日は若い人が目立つ。月) 朝顔鑑賞会、お茶会。泊り。園庭開放の幟を見て来て下さる。火) 水遣りを終えて久留米。水) 聖書の学び、読書会、職員会議を終えて甘木へ。泊。木) 車で甘木から松崎保育へ。夕刻まで居て甘木へ。金) 酷暑で結び。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）病気の方々への祈り。みな大切な人ばかりである。暑さを避けて甘木教会に行こうと思うが、どうしても昼を越し、暑い最中を汗だくだくに教会にたどり着く。新しい方の西鉄電車車両であったようで、鉄道マニアが写真を撮りに来ている。日が落ちるまで外の仕事が出来ないので印刷。本を読む。日）暑い中での礼拝。連休中日で少なかと思っていると 20 名近くになる。若い方が出席される。明日の水撒きもあり今日は泊まり。月）日が昇る前に水撒き終了。隣家のおばあちゃんが

「昨日はお泊りでしたか。電気がついていました。安心出来て寝られました」とお礼の言葉をいただき恐縮。朝は肥後朝顔の鑑賞・茶会へ。育てるに水撒きと聞く。江戸の後期に流行った朝顔連が続いている。庭で大葉を取り、さっそく大葉しば漬け作り。



漬物が好きな方の口に合えば良いと思う。少し塩分を（芝とゴーヤの棚）控えめに。園庭開放の幟旗を置いていると一家族が来る。地域に開かれた教会でありたい。暑いという一言。三夜連続の泊り。火）早朝、水遣りを終えて久留米へ帰る。羽村幼稚園の zoom 会議、午後から幼稚園へ。学校法人へむけての書類揃え。教会にありがちなことだが図面が見つからない。こういうものだということから始まる。学校法人むけて書類の準備は出来たが、本当にこれでいいのかと自問。こんな良い保育をしても運営は難しさを増す。ぐちってもしかたない。この良い保育を提供し、継続していくこと。水）朝礼をすまし、外にでると暑さに溶けそうになる。午後から職員会議。大和牧師の整った暖かい聖書の学び、柴田愛子さんの本の読書会。日々の保育、子育てと重ねて、読書感想が出て来た。長男に誕生日プレゼントを贈る。花屋の先の売れ残ったマリーゴールが気になって購入。酷暑の中で植えることは無謀だが、花の苗を持って電車で甘木教会に。20 時に到着。草、花に水遣り、公営温泉に行き、甘木教会に泊。木）初めて甘木一松崎の少し遠距離の道を自動車で運転した。地方では 90 歳を越えて運転されている。車は生活にかかせない。地方と都会の格差を、地方にあっても町々での格差があるのを実感がしている。早朝に水遣りをし、水は十分にしたが、ポットの土は夕刻にはからからに乾いている。朝、植えたマリーゴールに水を十分に遣って、久留米に帰宅。金）暑い



の一言で今週も結ぶ。茗荷が今年は豊作。忙しく忘れものをしないようにしよう。隣の部屋から子どもらの祈りが聞こえる。